

黨趣意書及規約



力4
3500



門カ
號3500
卷



立憲改進黨趣意書 (明治十五年四月十六日)

大詔一降立憲ノ事定マル我儕帝國ノ臣民ハ萬世一遇ノ盛時ニ遭フ惟
フニ此際如何ノ計畫ヲ爲シ如何ノ職分ヲ盡シ帝國臣民タルニ愧ル
ナキ乎他ナシ唯一團ノ政黨ヲ結ヒ相集マリ相同シテ我カ輿望ヲ表ス
ルアラシク耳來レ我兄弟來テ我カ政黨ヲ結ヒ我カ臣民タルノ職分ヲ盡
セヨ

幸福ハ人類ノ得ンコトヲ期スル所ナリ然レトモ少數專有ノ幸福ハ我
黨コレニ與ミセス蓋シ此ノ如キノ幸福ハ所謂ル利己ノモノニシテ我
黨ノ冀望スル王室ノ尊榮ト人民ノ幸福トニ反スレハナリ王室ノ尊榮
ト人民ノ幸福ハ我黨ノ深ク冀望スル所ナリ然レトモ一時暫且ノ尊榮
幸福ハ我黨コレヲ欲セス蓋シ此ノ如キノ尊榮幸福ハ所謂ル頃刻ノモ
ノニシテ我黨ノ冀望スル無窮ノ尊榮ト永遠ノ幸福ニ反スレハナリ是

早稲田大學圖書館
昭和33.10.15
藏書

ナ以テ若シ一二私黨ノ我カ帝國ヲ專ラニシ王室ノ尊榮ト人民ノ幸福
ヲ蔑ニシ目前ノ苟安ヲ偷ミ永遠ノ禍害ヲ顧ミサルモノアラハ我黨ハ
之ヲ目シテ以テ公敵ト爲サントス我黨ハ實ニ王室ノ無窮ニ保持スヘ
キ尊榮ト人民ノ永遠ニ享有スヘキ幸福ヲ冀フノ人ナリ以テ此政黨ヲ團
結セントス來レ我兄弟來テ我政黨ヲ結ヒ以テ其冀望ヲ表セヨ
政治ノ改良前進ハ我黨ノ冀望シテ止マサル所ナリ蓋シ政治ニシテ其
改良ヲ加ヘ其前進ヲ爲サレハ徒ラニ無窮ノ尊榮ヲ冀ヒ空シク永遠
ノ幸福ヲ望ムモ終ニ之ヲ全フスルヲ得ヘカラサレハナリ政治ノ改良
前進ハ我黨之レヲ冀フ然レトモ急激ノ變革ハ我黨ノ望ム所ニ非ズ蓋
シ其順序ヲ逐ハスシテ遽ニ變革ヲ爲シコトヲ謀ルハ即チ社會ノ秩序
ヲ紊亂シ却テ政治ノ進行ヲ妨碍スルモノナレハナリ是ヲ以テ夫ノ陋
見ニ惑ヒ徒ラニ守舊ヲ主トシ夫ノ急躁ヲ競ヒ好ンテ激昂ヲ務ムルモ

ノ、如キハ我黨ノ卻ケテ共ニ其冀望ヲ與ニセザルモノナリ我黨ハ實
ニ順正ノ手段ニ依テ我政治ヲ改良シ實着ノ方便ヲ以テ之ヲ前進スル
アラシコトヲ冀望ス依テ約束ニ章ヲ定ムル如左
第一章 我黨ハ名ケテ立憲改進黨ト稱ス
第二章 我黨ハ帝國ノ臣民ニシテ左ノ冀望ヲ有スル者ヲ以テ之ヲ團
結ス

- 一 王室ノ尊榮ヲ保チ人民ノ幸福ヲ全フスル事
- 二 内治ノ改良ヲ主トシ國權ノ擴張ニ及ボス事
- 三 中央干涉ノ政略ヲ省キ地方自治ノ基礎ヲ建ツル事
- 四 社會進歩ノ度ニ隨ヒ選舉權ヲ伸濶スル事
- 五 外國ニ對シ勉メテ政治上ノ交渉ヲ薄クシ通商ノ關係ヲ厚クスル事

六 貨幣ノ制ハ硬貨ノ主義ヲ持スル事

第二趣意書 (明治二十五年四月三日)

聖德宏遠四民泰平ヲ謳歌スルノ日ニ於テ國會開設ノ大業ヲ成就シ玉
フ是レ古今萬邦ノ未タ曾テ有ラサル所吾人帝國臣民タルモノ豈鞠躬
盡瘁以テ隆治ヲ贊襄シ奉ラサルヘケンヤ
孰ラ惟ルニ立憲政体ノ要ハ帝德下ニ普ク民意上ニ達シ君民一致上下
相戾ラサルニ在リ而シテ其運用ヲ靈活ナラシメント欲セバ必ず結果
整然タル大政黨ヲ要ス國家公黨ナケレバ必ず私黨アリ私黨争鬪ノ弊
禍ハ吾人ノ稔聞熟知スル所ナリ唯正人君子國民ノ幸福ヲ目的トシテ
公黨ヲ組織スルアリ是ニ於テ乎能ク私黨横行ノ弊禍ヲ防クヲ得是
レ吾人結黨ノ本旨ニシテ多年ノ辛苦經營一ニ此ニ在リ今ヤ益進ンテ
當初團結ノ規模ヲ擴張シ以テ大憲發布ノ德澤ヲ普及セシメ以テ立憲

國民ノ本分ヲ保全セント欲ス舉國忠愛ノ士請フ加盟團結シテ吾人ノ
誠意ヲ貫徹セシメヨ茲ニ黨議綱領ニ基キ之ヲ布衍スルヲ左ノ如シ

- 一 責任内閣ノ實ヲ舉ケ執政官ノ過失ヲ 帝室ニ歸スルカ如キ弊
患ヲ豫防スルヲ
- 二 冗費ヲ省減シ税法ヲ改良シ以テ國家富强ノ根本ヲ培養スルヲ
- 三 内外ノ形勢ニ應シテ國防ヲ整備スルヲ
- 四 對等條約ヲ締結シ權利實益ヲ保全スルヲ
- 五 選舉權ヲ擴張シ被選人ノ納稅制限ヲ廢スルヲ
- 六 言論集會結社及出版ノ自由ヲ擴張スルヲ
- 七 地方ノ制度ヲ改良シ自治ノ範圍ヲ伸潤スルヲ
- 八 從來ノ政弊ヲ矯正シ以テ新事業ノ經營ニ及ホスヲ

立憲改進黨規約

- 第一條 毎年十一月大會ヲ開キ黨務ヲ議決ス
但シ場合ニヨリ臨時大會ヲ開クヲ得
- 第二條 臨時緊急ノ場合ニ於テ代議會ヲ開ク其權限大會ニ同シ
- 第三條 代議會長一名、評議員六十名、掌事三名、事務員一名ヲ置ク
- 第四條 代議會長ハ評議員ニ於テ推選シ評議員ハ大會ニ於テ選舉シ
掌事及事務員ハ評議會ニ於テ選舉シ代議會長ノ承認ヲ經ヘ
シ其任期ハ壹ケ年トス
- 第五條 代議會ハ評議員及評議員ト同一ノ權限ヲ有スル者ヲ以テ組
織シ會長之ヲ統フ
- 第六條 評議會ハ評議員及評議員ト同一ノ權限ヲ有スル者ヲ以テ組
織シ重要ノ事務ヲ議決ス

- 但シ緊急ノ場合ニハ本部所在地居住ノ評議員及評議員ト同
一ノ權限ヲ有スル者ニ於テ議決スルコトヲ得
- 第七條 代議會ハ五十名評議會ハ二十名以上出席スルニ非サレハ開
クコトヲ得ス
- 第八條 黨勢擴張ノ事務ハ掌事之ニ當リ黨内ノ庶務ハ事務員之ヲ專
掌ス
- 第九條 各府縣適宜ノ地ヘ支部ヲ置ク但其規約ハ本部ノ認可ヲ受ク
可シ
- 第十條 支部ヲ置カサル各府縣ハ衆議員議員撰舉區ヲ限リ地方委員
ヲ設ケ其區内ノ黨務ニ關スル諸般ノ事ヲ掌ラシム
- 第十一條 地方委員ハ每區三名以上十名以下ト定ム其撰舉及任期ハ其
區内ノ便宜ニ任ス

第十二條 町村委員ハ每町村二名以上五名以下ト定ム其撰擧及任期ハ其町村ノ便宜ニ任ス

第十三條 我黨撰出ノ代議士前代議士掌事事務員支部ノ部長幹事議員等及地方委員ハ評議員ト同一ノ權限ヲ有ス

第十四條 缺席黨員ヨリ提出セル意見書ハ事務員之ヲ會議ニ報告シ其承諾ヲ經テ議題トナスヲ得

第十五條 入黨セントスル者ハ黨員ノ紹介ヲ要ス

第十六條 脫黨セントスル者ハ其旨ヲ本部(支部アル地方ハ支部)ニ通知ス可シ

第十七條 我黨團結ノ冀望ニ背キ若クハ我黨ノ面目ヲ汚ス可キ行爲アル黨員ハ評議會ノ決議ヲ以テ除名ス但シ除名セラレタル者再ヒ入黨ヲ申込ミタル時ハ評議會ニ

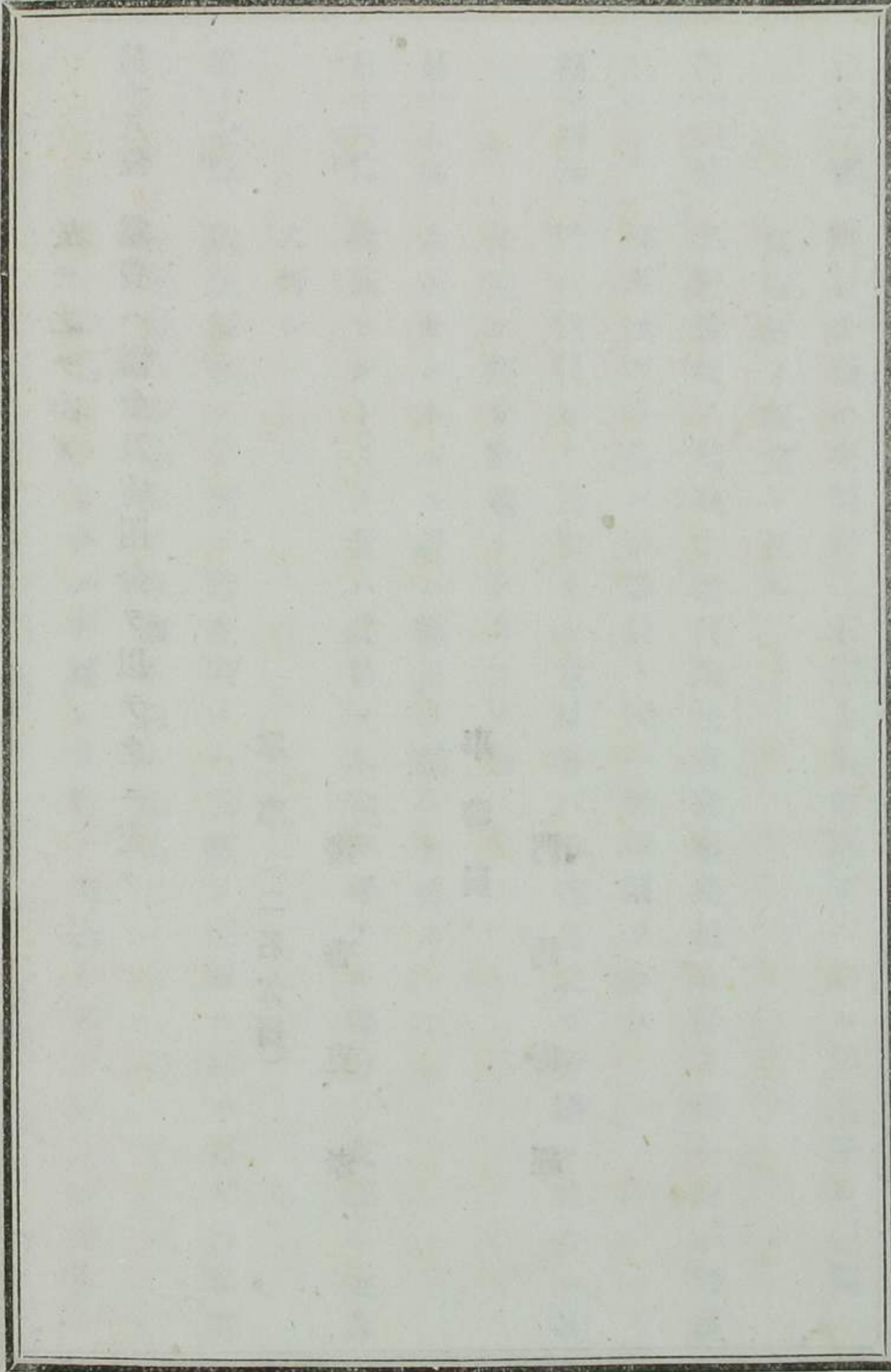
於テ之ヲ決ス
第十八條 黨費ハ醜金及寄附金ヲ以テ之ニ充ツ

掌事 (二名欠員)

淺 香 克 孝

事務員

門 馬 尙 經



規約第三條ノ人名左ノ如シ

代議會長

大隈重信

評議員

岩田味三郎	橋元勗	板東幸平
番辰雄	張谷正三郎	八田虎太郎
堀谷左次郎	星野平兵衛	小川三千三
大矢四郎兵衛	尾崎二吳	大蘆梧樓
大澤紋一郎	大口喜六	渡邊又兵衛
川口源三郎	川上淳一郎	片岡勇三郎
河合龍節	横尾輝吉	吉堀賢助
吉田甚平	高木守三郎	田中鐵五郎

田中唯一郎	竹内清一	高梨盛一
長竿誠一郎	中山誠一	宇佐美佑申
野口本之助	野澤金一	桑田房吉
黒須龍太郎	柳啓三郎	的場平次
町田朝太郎	松川宰吉	福田又一
藤田吉亨	小金井宣助	遠藤善夫
淺尾哲次	秋虎太郎	赤坂儀作
赤坂龜次郎	天海濱吉	荒川高三郎
青木彦兵衛	柵瀬軍之佐	齋藤和太郎
澤田喜三	坂齋道一	菊地小兵衛
寺家村逸雅	塩入太輔	篠永牧太
樋口元周	森川六右衛門	砂川憲三

議員集會所々屬代議士左ノ如シ

井上彦左衛門	井深幹	市島謙吉
鳩山和夫	橋本久太郎	波多野傳三郎
西村眞太郎	尾崎行雄	大津淳一郎
岡村貢	太田孫次右衛門	大北作次郎
小原金治	和田方正	鹿島秀麿
河野岩吉	田中正造	武市彰一
高木正年	高田早苗	田邊久藏
高橋小十郎	角田眞平	中野武營
中山平八郎	名倉次郎	内藤久寛
村上芳太郎	室孝次郎	漆間民夫
内山正治	野口代治	久保田右作

丸尾	文六	松島	廉作	眞館	貞造
福田	久松	肥塚	龍	小鷹狩	元凱
寺田	彦太郎	阿部	興人	佐々木	松坪
木村	格之輔	北原	信綱	箕浦	勝人
島田	三郎	島田	孝之	首藤	陸三
四宮	有信	島村	成達	廣住	久道
森本	確也	鈴木	仙太郎		

議員集會所々屬前代議士左ノ如シ

今村	勤三	色川	三郎兵衛	石井	定彦
林	和一	豐田	實穎	小笠原	定一
神野	良	加藤	政之助	達谷	窟信敬
立入	奇一	高須	峰造	田村	惟昌
都崎	秀太郎	内藤	利八	魚住	逸治
野村	修造	倉田	準五郎	工藤	卓爾
山中	隣之助	松本	八十八	松本	長平
丸山	名政	藤田	高之	小林	信近
淺野	順平	天野	爲之	秋元	三左衛門
有友	正親	淺香	克孝	青木	匡
佐藤	文兵衛	三浦	碧水	守野	爲五郎

本山之健治 關口八兵衛 關野善次郎

11 21544

(京橋區水谷町日進舎印行)